

# 修士論文の和文要旨

研究科・専攻	大学院 電気通信学研究科 情報通信工学専攻 博士前期課程		
氏 名	齊藤 圭祐	学籍番号	0930030
論文題目	リハーサルにおける プレゼンテーションセマンティクス構成スキルアップ支援		
<p>要 旨</p> <p>研究活動におけるプレゼンテーションは、学会発表など自らの研究を他者に説明するための重要なアクティビティである。そのため、研究内容をどのようにプレゼンテーションドキュメントとして構成・デザインし、また話すかというスキルが重要となる。本研究では、これらのスキルをセマンティクス構成スキル、コンテンツデザインスキル、オーラルスキルと呼び、主にセマンティクス構成スキルに着目する。セマンティクス構成スキルとは、プレゼンテーションドキュメントに内在する意味的構造（プレゼンテーションセマンティクス）を理解し、かつ様々な発表文脈（発表時間、場、聞き手など）を制約条件としてセマンティクスとともにドキュメント内容を構成できる能力のことである。</p> <p>このセマンティクス構成スキルを向上させるためには、プレゼンテーションを「書く」と「聴く」との経験を重ねることが重要である。ここでの「書く」とは、想定される発表文脈に応じて研究内容を説明するためのセマンティクスを構成しながらドキュメントを作成することである。「聴く」とは、特定の発表文脈で発表されるドキュメント内容を聴きながら、セマンティクスを構成することである。いずれも、発表文脈に応じたセマンティクス構成を含むタスクであると捉えることができる。つまり、セマンティクス構成スキル向上のためには、様々な発表文脈に適したセマンティクスを構成する知識を習得することが重要である。</p> <p>しかしながら、プレゼンテーションドキュメントを「書く」のみでは想定される発表文脈だけでセマンティクスを構成することになるため、こうした知識を習得するのは困難である。一方、研究グループでの発表リハーサルなどでは、様々な文脈を想定したプレゼンテーションを「聴く」機会が得られやすく、発表文脈ごとに適したセマンティクスを学ぶことができる。</p> <p>本研究では、「書く」と「聴く」の両面からセマンティクス構成を支援する研究を行っており、本論文ではこのうち「聴く」との支援に着目する。特に、研究グループ内での発表リハーサルを通して支援する手法について検討する。研究グループで実施される発表リハーサルは、通常プレゼンタとオーディエンス（聞き手）から構成される。オーディエンスの目的は、プレゼンタに対して発表内容に関する指摘を行うことであり、一般に「書く」ことを目的として「聴く」ことは行われない。また、「書く」目的で聴こうとしても、どのように聴けば良いかが必ずしも明らかではない。</p> <p>そこで、本研究ではセマンティクス構成スキル向上のために、研究グループ内のセマンティクスの共通構造であるプレゼンテーションスキーマ（以下、スキーマ）を利用することで、リハーサル中に「書く」ことを目的とした「聴く」ための支援について検討している。具体的には、リハーサルに参加しているオーディエンスにスキーマを足場としたセマンティクスの構成や、構成したセマンティクスの見直しを行わせる。本研究では、この様な支援手法に基づいてリハーサル支援システムを実装した。</p> <p>また、実装したリハーサル支援システムを用いたケーススタディの結果、研究初学者のセマンティクス構成スキルの向上を促進することが示唆された。</p>			